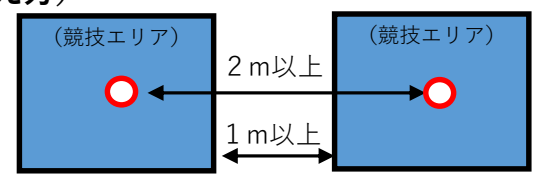


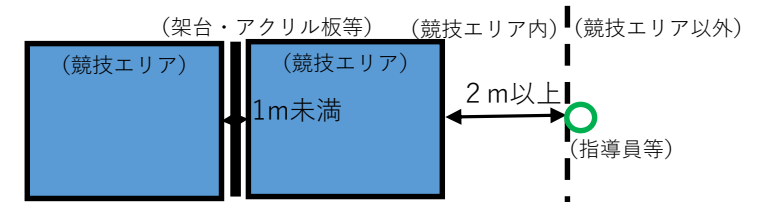
# 競技エリアの考え方

- ① 三つの密を避けるため、原則として競技エリアの中心と競技エリアの中心の距離を2 m以上かつ競技エリアと競技エリア（作業台などを隔てている場合においては、選手と作業台越しの隣の競技エリア）の距離を1 m以上空ける。（例1）
- ② 選手と選手の間隔を2 m以上確保できない場合には、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽する。人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽する。なお、各職種の競技会場の広さ、感染防止対策を踏まえ、必要に応じ、対応する。（例2）
- ③ 選手と選手以外の者との間隔をできるだけ2 m以上空ける。（例2）
- ④ 競技委員等により、複数の選手が触れる可能性のある競技機材を、選手が入れ替わる際等にこまめに消毒する。
- ⑤ 参加者、競技委員等が全国大会開催の間にこまめに手指を消毒できるよう、職種又は種目ごとの競技エリアにアルコール等の手指消毒剤を設置する。

(競技エリアの考え方)



(例1) 競技エリアの中心と競技エリアの中心の距離を2 m以上かつ競技エリアと競技エリア（作業台などを隔てている場合においては、選手と作業台越しの隣の競技エリア）の距離を1 m以上



(例2) ・2 m以上確保できない場合は、アクリル板等で遮蔽  
・選手と選手以外の者との間隔を2 m以上